

平成23年度科学・技術関係予算についての  
第一線の若手研究者からの意見募集結果  
(24015：観測・予測研究領域)

| ご意見の概要           | 件数 |
|------------------|----|
| このまま推進すべき        | 1件 |
| 改善・見直しをした上で推進すべき | 1件 |
| 推進すべきではない        | 1件 |
| その他              | 0件 |
| 合計               | 3件 |

【主なご意見】

課題は重要かつ、国が為すべきことである。喫緊の課題であるだけに、実効性のある成果がでることを厳しくもとめるべき。自然災害はいつ起こってもおかしくないので、達成期限(H27)に囚われず、より早期の実現を目指すべき。所管官庁は早期かつ低予算で目標達成された場合のインセンティブも検討すべき。

「達成目標及び達成期限」に書かれている「・局地的短時間豪雨に伴う水・土砂災害の早期予測技術の開発」では、国土交通省で現在進められている「気候変動に対応したゲリラ豪雨(局地的大雨)対策に関する研究」との連携は取られているのでしょうか。

地震・火山噴火や局地的豪雨などを観測・予測する技術の研究開発の必要性は理解できるが、実施体制については再考すべきである。大学や研究機関との連携によりさらに多くの成果が出るものと期待される。